

高校の授業で「国語」を学ぶのはなぜ？ 他教科の本を読めばよいのでは…？

日本の高校1年生の大半は、日本語をすでに15年以上使って生活しています。今さら学校で「国語」を学ばなくても問題ないのではと思う人はいませんか。高校の「国語」では、いったい何を学ぶのでしょうか。今回はその主な分野である「現代文」と「古典」について、学習の目的と方法を考えてみます。

【現代文】

「現代文」のテキストは、論理的文章〔評論・随筆など〕と、文学的文章〔小説・韻文など〕の2つに分けられています。ここからは、それぞれの勉強方法について考えていきます。



1 論理的文章〔評論・随筆など〕

これらは、「正しく読み取ること」が目的となります。そのために重要なのが次の3つの力です。

- ①「語彙力」(言葉についての知識)
- ②「テキストの読解力」(筆者の主張がどこに、どのように書かれているかを把握する力)
- ③「現代思想の力」(テキストの思想的な背景についての理解力)です。

授業を通して①～③の力を高めつつ、正しく読み取れるように訓練していきます。また『術語集』『問題集』などを使って自主的に勉強することが、皆さんに求められていることは言うまでもありません。

現代文の授業で扱う評論は、日本語を日常的に使用する学生が、より深く思考し、判断し、表現する力を習得できるように吟味されています。現代人が理解し解決すべき様々な問題が提示され、大学入試においても最も広く出題される種類の文章です。自分はこの世界とどう向き合うべきか、自分らしく生きていくためにはどうすれば良いのか、「現代文」の学習が何か皆さんの生き方のヒントになれば幸いです。

2 文学的文章〔小説・韻文など〕

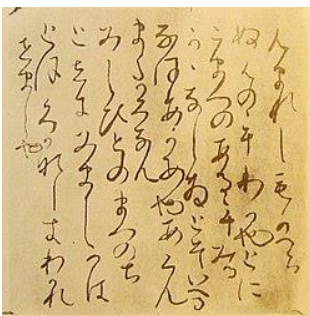
これらの目的は「読み味わうこと」。教科書の定番小説『羅生門』『山月記』『こころ』など、文豪たちの作品は、時代を超えて共感できる「人間の面白さ」の結晶です。作中の人間ドラマや、作家が仕掛けた様々な謎を解く面白さもあります。哲学・心理学的なアプローチや、時代背景についての考察が、読解を格段に深めることもあるでしょう。

また、詩歌などの韻文が、小説以上の感動を深く心に刻むこともあります。人間の生き様や言葉のもたらす感動が読む人の運命を変え、苦しみを癒やすこともあります。日頃から授業以外の作品にも触れて、日本語の持つ繊細な意味の違いや豊かな情感を味わってください。

【古典】

「古典」では、「古文」と「漢文」を学びます。つまり、日本と中国の古典作品を、それぞれ読解し鑑賞します。我々の先祖は、どのような時代を生き、何を思ったのか。それは現代人と全く異なるのか、同じようなところがあるのか、何を大切にし何を恐れたのか、読み味わっていきます。

もちろん、昔の(日中の)作品を読むのですから、現代日本語とは違う言葉を覚えねばなりません。英語の学習と同様に、何度も反復練習しなければならないので、力がつくのに時間がかかります。しかし、努力に比例して成果が出るのも「古典」の分野です。現代文よりも内容が単純で応用が利くのも嬉しいところだと思います。



1 古文(1年次)… 読解に必要な①～③について、基本的な知識を身につけよう。

- ① 語彙
現代語には無い語句・あっても違う意味で使われる語を、重要古語と意識して1・2年生のうちにできるだけ定着させましょう。
- ② 文法
用言(動詞・形容詞・形容動詞)・助動詞・助詞・副詞・敬語の用法・和歌の

修辞法など覚えるべきことは比較的限られています。覚えてしまえば、文章が格段に解読し易くなるので、早めに暗記してしまいましょう。

③ 古文常識

『総合ガイド』の絵図・写真や教科書のコラムなどで、昔の人々の生活様式に触れておくと、古文の内容を理解するために大いに役立ちます。

2 漢文（1年次）… 古代中国語を、日本語として読むための基本ルールを習得しよう。

① 訓読上の知識

訓点（返り点・送り仮名など）の知識を用いて規則どおり読めるようになることはもちろん、文の構造（SVO型、SVC型など）や、返読文字・再読文字のうち頻出の漢字を覚えるととても読み易くなります。

② 句法

否定・疑問・反語・使役などの特定の意味を表すためには、決められた漢字や、いくつかの構文を用います。この句法を覚えると、返り点やこと送り仮名の付けられていない漢文でも読める場合があります。大学入試では、訓点を付けない文や詩句の読み方や意味を問うものも多いので、頻出漢字の使用法は覚えましょう。

③ 漢詩の知識

平安時代の貴族に欠かせぬ教養の一つは漢詩の知識です。我々の先祖は、大陸の進んだ文化に憧れ、雄大な景色やそこに生きる人々に想いを馳せたのです。それはドラマチックな史伝などと同じように読む者を魅力し、現代の我々をも遠い昔の異国の地へと誘います。



古文も漢文も、私たちがしばし空想の世界に引き込み、日常の喧噪を忘れさせてくれるものですが、読み慣れるまでは英語の学習と同様に、辞書を引きつつ苦勞して読まねばなりません。1・2年生のうちは、必ず予習して疑問点を明らかにした上で授業に臨むことが、知識を定着させる一番の近道です。辞書や参考書、資料集をこまめに引くことが大事です。ノート作り方を工夫し、テスト前の復習をし易くすると良いでしょう。

大きな時代のうねりの中で、激しく変化するものがある一方で、今も昔も変わらないものがあります。古きを温め、新しきを正確に見極め、判断して、私たちは未来に向かって生きていかねばならない。

日本語を用いて考え、感じ、伝え、ともに生きる私達だからこそ、高等学校「国語」の授業で「現代文」や「古典」から学び、世界と人間について考え、感性を磨く必要が大いにある。そのように考えます。